

茅ヶ崎市文化生涯学習プランの
単年度評価について

(答申)

令和7年8月25日

茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会

目 次

1 答申にあたって	1
2 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和6年度施策評価(委員会評価)	2
3 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和6年度施策評価(行政評価)	6

1 答申にあたって

令和7年6月23日付け7茅文推第73号で諮問のありました標記について、次のとおり答申いたします。

茅ヶ崎市では、令和6年4月1日に、「みんなが学び未来を創造する文化生涯学習のまち ちがさき」を目指す姿とし、3つの基本目標及び基本目標を達成するための4つの施策を位置づけた「茅ヶ崎市文化生涯学習プラン」を策定しました。プランは、

「施策1 市民の文化芸術・学習機会の充実」

「施策2 未来を創る市民の育成と活動支援」

「施策3 文化資源の継承」

「施策4 個性豊かで愛着あるまちづくり」の4つから構成されています。

本答申は、茅ヶ崎市の令和6年度の文化生涯学習事業について、この施策ごとにその実績を評価し、良かった点や改善すべき点を指摘するものです。

本答申をもとに、市民のみなさんが心豊かに暮らし、文化生涯学習に主体的に取り組むことで、気候変動、人口減少、高齢化、DX化、SDGs等の社会環境変化にも対応した、暮らしやすく創造的なまちづくりが発展し、シビックプライドが形成されることを期待します。

令和7年8月

茅ヶ崎市文化生涯学習プラン推進委員会

委員長 野田 邦弘

2 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和6年度施策評価(委員会評価)

委員会評価は、市が作成した令和6年度事業の行政評価(6～29ページ)を基に、委員会として評価できる点及び改善を要する点と考えた意見をまとめたものです。

施策1	市民の文化芸術・学習機会の充実
------------	------------------------

ア 評価できる点

- ・10月～11月に「茅ヶ崎みんなのアートフェス」期間内に市民文化会館にて実施したウクレレワークショップの参加者について、このようなワークショップは特定の年代に偏ることが多いが、多世代が受講していることについて評価します。
- ・美術館は地域の特性に合ったテーマと起爆剤となるようなテーマを織り交ぜながら、SNSを含むWeb及び紙媒体による活動内容の周知を活発にしており、効果的に展開しています。
- ・美術館の魅力的な展覧会はもとより、展覧会期間内の多彩な関連イベントが開催に好影響をもたらしたと感じています。引き続きワークショップの開催を含め、美術館の多様な楽しみ方があることを情報発信されることが重要であると感じます。
- ・美術館で開催されたフランス真悟の企画展示は、美術館の建物を生かした展示となっていたことを評価します。
- ・まなびの市民講師自主企画講座の実施回数が年々増加していることについて、評価します。
- ・市民まなび講座で実施されている「茅ヶ崎市のごみと資源物について（収集車パッカーくんを身近で見学しよう）」は、子どもたちがごみや環境について学べる機会となり、このような機会は重要であると考えます。
- ・アウトリーチ事業の実施件数は2件に留まりましたが、うち1件の「茅ヶ崎市内3駅とその周辺いまむかし」は、市内の巡回展であったことは、評価します。
- ・日舞ワークショップは、次世代を担う子どもたちが日本の伝統文化である舞踊に触れるきっかけとなった取り組みであることを評価します。

イ 改善を要する点

- ・夏休み期間中の保護者は、子どもが参加できる講座やイベント等を探していますが、探す時間もない状況です。そのような講座イベント等がある場合には、商業施設と連携して、掲示板に案内を貼付したり、SNSをより活発化したりすると良いと思います。
- ・講座を実施した際には、アンケートを必ず取るべきで、また、アンケート集計は人数集計だけでは見えてこないです。参加者の感想には今後のヒントがあると思いますので、市の担当者が感想を見る習慣をつけて改善につなげてほしいです。
- ・美術館無料観覧カードの配布は良いが、美術館までの移動手段や移動自体の困難さが人

によって異なります。来てくれる体制づくりが重要で、同伴者の同行など、来館しやすい優待制度などを検討することも良いと思います。

- ・美術館で毎年度実施している市内の中高生展は、保護者が観覧に行きます。普段美術館に来られない方も来られる新規開拓のチャンスであると思います。また、アンケートで、例えば「このアートがあなたの人生にどのように刺激になったか」を入れて、その結果をワードクラウドにして市内の公民館などにアートのように貼付すると、多くの人の関心や共感を生むと思います。
- ・ウェルカムカードは良い取り組みであると感じていますが、美術館に子どもを連れて行く心のハードルは依然高いと思います。ベビーカー置き場がある、授乳室があるなど積極的に周知を行うことで、受入れ体制があるということをアピールしてもらいたいです。旅行会社では、子ども連れ専用車両などを設け、周りに気を使わないで出かけられる環境を提供したりしています。一つずつ、一日ずつ、試行実施でも良いので、小さな子どもが行きやすい場の提供をしてもらいたいです。
- ・美術館では、車いすの方等は、1階入口のインターホンを押し、職員案内のもとエレベーターを利用できる取り組みを行っており、表示も設置していますが、周知が足りないと思いますので、周知の徹底及び視認性の高い表示を設置すると良いと思います。

施策2

未来を創る市民の育成と活動支援

ア 評価できる点

- ・生涯学習ガイドブックは、生涯学習情報が充実しており、講師を探す際にも役立つ内容となっています。また、まなびの市民講師制度は、講師が講座を開催する度に上手くなっていることが見受けられます。講座について、受講者だけではなく、講師自身の経験や学びになっていることを評価します。
- ・茅ヶ崎みんなのアートフェスで実施している高校生バンド応援企画「でっかいホールで演奏するぜ！」の取り組みは貴重な機会の提供として評価できます。
- ・アーティストや市職員が訪問し、体験機会を提供する文化教育芸術プログラムは、充実しており、その取り組み自体はありがたいことだと思います。

イ 改善を要する点

- ・まなびの市民講師の活動は、セカンドキャリアの方が自分の特技等を伝えていく形が多いと思いますが、それだけですと、同世代や知り合いが参加することが想定されます。例えば、学校の放課後に指導に行く環境や、市民が勤務先から帰宅する途中に駅近辺の商業施設で講座を受けることができる環境等をつくると良いと思います。
- ・まなびの市民講師の分野が、文化・芸術と音楽が分かれているが、音楽も文化・芸術であると思われるので、分野の再検討をお願いします。
- ・ハマミーナまなびプラザは、貸館だけではなく、まなびの市民講師自主企画講座なども

実施されているとのことなので、講座の実施等について、より強調された方が良いと思います。

- ・茅ヶ崎みんなのアートフェスで実施している高校生バンド応援企画「でっかいホールで演奏するぜ！」は、市内の高校だけでは自ら門戸を狭めてしまっていますので、在住者が通学するであろう県内の高校にまで周知範囲を広げた方がより良いと思います。
- ・市の平和事業と連携した文化芸術体験に関連した事業として、ピーストレイン事業の事前学習を実施したようですが、当該事業は少人数で対象が限られているため、もっと多くの子どもたちに体験できる機会があると良いと思います。
- ・教職員等に向けたプログラムは、平日はまず参加できず、土日も部活などの対応があり難しいです。教職員の体制が抜本的に改善されないと活用は難しいと思います。授業は前年の夏頃から調整をしており、開催にあたっては、早めに調整をすることが重要です。

施策3

文化資源の継承

ア 評価できる点

- ・純水館は、歴史資源が少ない茅ヶ崎市にとって、貴重であり、研究、成果展示を行ってきたことについて、評価します。また、今後も大事にしてほしいです。
- ・茅ヶ崎市の歴史を分かりやすく伝えるために「ヒストリアちがさき」や「市史ブックレット」を作成し、市内小中学校にも配架していることは大変評価に値する取り組みだと思います。

イ 改善を要する点

- ・共通の基盤となる歴史やゆかりの人物等に関することについて、市と教育委員会のそれぞれで取り組みを実施しているように感じます。類似事業は、手を合わせれば太い幹になっていき、市民にも伝わりやすいと思いますので、連携を強化された方が良いと思います。
- ・市内の別荘文化を後世に伝えるために、市として、資料を収集するとともに、測量したうえで地図を作成すると良いと思います。
- ・「茅ヶ崎市史」は、発行から40年以上経ち、現在とで解釈が異なっている部分があるかと思います。例えば、「ヒストリアちがさき」何号で解釈が変更となっている等が明示できると良いと思います。
- ・市の職員はどうしても市内を見る傾向がありますが、市外にも集客が見込めるような事業は、市外へのピーアールを強化するべきだと思います。
- ・文化資源を守るためには、かなりの予算が必要となるケースがありますが、例えば、富裕層にアプローチし、巻き込むことで、支援を促すことも一つの手法だと思います。
- ・子どもたちが市の歴史を学ぶ機会として、教育委員会が作成した副読本「わたしたちの

茅ヶ崎」の中にも市史の内容も含まれているとのことですが、例えば、中学生は、より内容を深堀でき、中学生以上を対象としている「市史ブックレット」を授業等で活用してもらうことを検討すると良いと思います。

施策4 個性豊かで愛着あるまちづくり

ア 評価できる点

- ・クリエイターシティ・チガサキ キックオフシンポジウムは、市民がこれからクリエイターシティ・チガサキをつくっていくという夢とロマンを感じる企画で素晴らしかったです。
- ・しろやまフェスタは市だけではなく、NPO法人や商業施設と連携し開催しており、また同時開催でさまざまなイベントも開催されることにより、南西部地域の賑わいを創出しているとのことで、今後のさらなる可能性を感じます。

イ 改善を要する点

- ・次の時代につながるような、一度見ただけでは理解できないような最新鋭の先端芸術についても市民が触れる機会が必要だと思います。
- ・青森県八戸市では、市がブックセンターを直営し、ライター養成のためのライティングブースを設置しており、育てる環境づくりをしているので、参考にすべきだと思います。
- ・クリエイターシティ・チガサキのクリエイターという言葉は、プロのイメージが強いため、アマチュアも定義に含めるとの方針のようですが、それを市民等に向けて全面に押し出す必要があると思います。
- ・ハマミーナまなびプラザは、大人数で講座を実施する場合にも対応できるスクリーン等の機材を準備した方がよいです。

最後に全体に係る部分として、「ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業」など教育委員会社会教育課との二重行政の現状は、市民に分かりにくく、また行政の非効率にも繋がるもので、その改善に向けた検討が求められます。

3 茅ヶ崎市文化生涯学習プラン令和6年度施策評価(行政評価)

行政評価は、令和6年度に実施した各取り組みの実績評価です。施策ごとに、各取り組みが効果的に行われたかを市が評価したものです。

施策1 市民の文化芸術・学習機会の充実

■施策の方向

- 公演、展覧会等の鑑賞機会やワークショップ等の体験機会を提供し、市民が様々な文化芸術に触れる機会の充実を図ります。
- 誰もがいつでもどこでも参加することができる多種多様な学びの機会やその情報の提供の充実を図ります。
- 誰もが文化生涯学習活動に参加できる環境を整備するとともに、気軽に施設を訪れることができる環境を整備します。

■主な取り組み

①文化芸術の鑑賞・体験機会の充実

・舞台公演、体験ワークショップ

市民文化会館を中心として、音楽や演劇、落語など幅広いジャンルの公演を開催します。また、演劇やダンスを体験できるワークショップなどを実施し、様々な文化芸術に触れる機会の充実を図ります。

令和6年度の主な実績



市民ふれあいプラザコンサート

市役所本庁舎1階市民ふれあいプラザにて、気軽にプロの音楽を楽しめるイベントとして親しまれる「市民ふれあいプラザコンサート」を5月と1月に開催しました。コンサートを目当てに来庁される方、たまたま行き合った方などに音楽鑑賞の機会を提供しました(夏:200人、冬:150人)。

10月～11月の「茅ヶ崎みんなのアートフェス」期間内に市民文化会館にてウクレレワークショップを開催しました。姉妹都市友好協定締結10周年を記念し開催した本事業は、音楽を楽しむなかで、姉妹都市ホノルルを身近に感じられるイベントとなりました(32人)。

1年を通し、鑑賞・体験事業を47事業実施し、市内外から約24,300人の参加がありました。

・美術作品を鑑賞できる展覧会

美術館を中心として、茅ヶ崎ゆかりの作家等による美術作品の展覧会を開催します。各展覧会では、展示作品を担当学芸員が解説するキュレータートークや展覧会の内容に合わせたワークショップなどを実施します。また、学校や地域の芸術団体と連携した展示などを実施し、美術に触れる機会の充実を図ります。

令和6年度の主な実績



柳原良平 ごきげんな船旅

美術館展覧会の観覧者数は45,688人（企画展4回、共催展3回）、関連ワークショップの参加者は981人（呈茶席を除く）でした。

アルフォンス・ミュシャ展では美術館観覧者数歴代2位、柳原良平展では歴代6位と多くの来館に繋がりました。

企画展	会期	観覧者
フランシス真悟 Exploring Color and Space—色と空間を冒険する	3月30日～6月9日 (62日間)	5,960人
アルフォンス・ミュシャ展 アール・ヌーヴォーの美しきミューズ	6月18日～8月25日 (60日間)	18,935人
柳原良平 ごきげんな船旅	9月3日～11月10日 (60日間)	7,568人
生誕130年青山義雄とその時代	12月14日～2月24日 (58日間)	5,524人

各展覧会では、ワークショップやアーティストトークを開催し、展覧会の魅力をより具体的に、多角的に伝える工夫を行いました。

フランシス真悟展 関連事業	開催日	参加人数
アーティストと一緒につくる色と形を楽しむ造形ワークショップ	4月21日	20人
抽象画を手掛けるアーティスト同士が語る作品についてのゲストトーク	5月18日	28人
自ら解説を行うアーティストトーク	4月21日、6月1日	200人
展示作品について担当学芸員が解説を行うキュレータートーク	5月22日、6月2日	64人

ミュシャ展 関連事業	開催日	人数
コレクターが語るミュシャの魅力とあれこれ	7月13日、8月10日	245人
展示作品について当館館長が解説を行う館長トーク	6月29日、7月28日	127人

柳原良平展 関連事業	開催日	人数
講演会「文化史からたどる日本人の大好きなハワイの魅力とその秘密」	10月12日	38人
講演会「柳原良平が乗った！描いた！個性ゆたかな外国客船と船の旅」	10月27日	43人
ワークショップ「ふねのイラストを切り絵にしよう」	9月29日	33人
展示作品について担当学芸員が解説を行うキュレータートーク	9月15日、11月2日	90人

青山義雄展 関連事業	開催日	参加人数
アロマストーンフラワーサシェ作り	2月15日	14人
展示作品について担当学芸員が解説を行うキュレータートーク	12月21日、1月13日	59人

茅ヶ崎美術家協会展 関連事業	開催日	人数
ワークショップ「一色みつけ形みつけから抽象へ落書きよりおもしろい」	3月9日	20人

・伝統的な文化を体験できる講座

松籟庵を中心として、茶道や能楽を体験できる講座やワークショップなどを開催します。また、日本庭園を眺めながらお茶を楽しめる季節の茶席などを開催し、日本の伝統的な文化に触れる機会の充実を図ります。

令和6年度の主な実績



チャレンジ!こども日本舞踊講座

日本の伝統文化に触れるワークショップを6事業開催し、参加者は合計294人でした。

松籟庵で実施した新緑と紅葉の季節に開催する呈茶席は、茶道を気軽に楽しみ申込不要で参加できるため夏・秋通して予定数いっぱいの参加がありました(201人)。

文化会館で開催したチャレンジ!こども日本舞踊講座では、参加した子どもたちとともに、発表を見た保護者にも好評を得たワークショップとなりました(16人)。

②学びの機会の充実

・多様な主体による生涯学習講座

市職員が講師となり、市の取り組み等について学ぶことができる「市民まなび講座」や、まなびの市民講師の知識や技術等を生かした幅広い分野を学ぶことができる「まなびの市民講師自主企画講座」など、多様な学びの機会の充実を図ります。

また、大学や企業、NPO法人等と連携し、デジタル分野など、より専門的な特定の分野を学ぶことができる機会を提供します。

令和6年度の主な実績



市民まなび講座

市民まなび講座は、全80メニューのうち、市民から開催依頼があった16メニュー・67講座を開催しました(4,861人)。特に市のごみ・防災・健康等の取り組みに関するメニューのニーズが多くありました。

まなびの市民講師自主企画講座は、令和5年度から開催数が倍増し、57種類・220回実施し、幅広い専門分野注)における学びの機会を提供しました(2,119人)。

注) 文学・ヨガ・手芸・フラダンス・ICT・語学・料理等

	4年度	5年度	6年度
講座開催数	90回	110回	220回
参加人数	1,062人	1,365人	2,119人

立正大学と連携し、文学や自然科学をテーマとした立正大学デリバリーカレッジを2講座開催しました(82人)。

文教大学と連携し、生成AIをテーマとした「文教大学出張講座」を開催しました(37人※定員を上回る申込があり、定員を拡充)。

・様々な手法による講座

生涯学習講座の開催に当たっては、従来の対面講座を希望する方々、対面では足を運べない方々、様々な場所から気軽に参加したい方々など、多様な人が参加・交流できるよう、従来からの対面型の講座やオンラインを活用した講座、それらを組み合わせたハイブリッド型の講座など、様々な手法を用います。

令和6年度の主な実績



文化に触れる講座

生涯学習では、対面及びオンラインを組み合わせたハイブリッド型の手法にて、文化に触れる講座(歴史)、立正大学デリバリーカレッジ(文学・自然科学)及び生涯学習支援者養成講座注)(生涯学習・キャッチコピー)を計5講座開催しました(対面参加者221人・オンライン参加者100人)。

注) 生涯学習支援者養成講座(まなびの市民講師等の生涯学習支援者向けのスキルアップ講座)

・様々な情報の提供

市民まなび講座、まなびの市民講師や生涯学習サークル一覧等を網羅した生涯学習ガイドブックを発行するとともに、市が実施する学びの情報を集約した生涯学習ポータルサイト※を運営するなど、様々な情報発信ツールを活用し、学びに関する情報提供の充実を図ります。

令和6年度の主な実績



生涯学習ガイドブック表紙

市民まなび講座、まなびの市民講師や生涯学習サークルの一覧等を網羅した生涯学習ガイドブックを発行し、市ホームページ掲載及び各公共施設に配架しました。

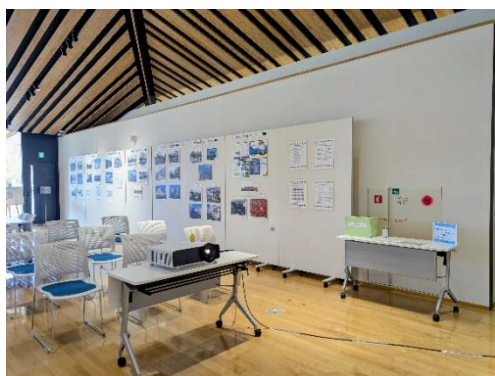
市が実施する学びの情報等を集約した生涯学習ポータルサイトを運営しました。(アクセス数 3,944)

③インクルーシブ※な事業展開・施設運営

・アウトリーチ※事業

文化芸術に触れる機会の少ない方や様々な事情で施設まで足を運べない方々に生の文化芸術を届けることを目的として、福祉施設や人が集まる場所などへのアウトリーチ事業を実施します。

令和6年度の主な実績



写真展(博物館)の様子

市史講座として、茅ヶ崎 太陽の郷 博修館を会場に「南湖院・第一病舎の設計者 岡本鶴蔵」(56人)を開催し、同施設への理解を深める取り組みを行いました。

昔の写真・特定歴史公文書等に関する展示として、「茅ヶ崎市内3駅(茅ヶ崎駅・北茅ヶ崎駅・香川駅)とその周辺いまむかし」をテーマに、2月25日～2月28日は市役所本庁舎1階市民ふれあいプラザにて、3月15日～3月23日茅ヶ崎市博物館にて巡回展を実施し、市民等への周知啓発を行いました。

・市民の特性やニーズに応える多様な場の提供

子育て中の保護者の息抜きや新たな仲間づくりの場、交流の場となる事業や子どもの居場所の確保を目的とした事業など、市民のニーズに応える多様な場を提供します。

令和6年度の主な実績



いこいの場プロジェクト

市民文化会館では月1回、音楽やアートに気軽に触れられる空間を創出し、アートを通じた育児支援、多世代交流、学校に行きづらい子どもの居場所づくりを行いました。小さな子ども連れや高齢者など幅広い世代が参加者どうしの交流や各々の時間を楽しむなど、外に出る機会に繋がりました(766人)。

ハマミーナまなびプラザでは、子どもから大人まで誰でも使用できるフリースペースを運営しており、学生が自習の場として活用するケースも多くなっています。

保健師によるこにちはあかちゃん訪問の際に、子ども連れて美術館を無料観覧できる「あかちゃんとおとなの方へのウェルカムカード」を配布しており、子どもを連れて美術館に訪れる機会の創出に努めています(大人275人、乳幼児169人)。

・多様な人が活動に参加できる環境の整備

障がい者、ジェンダー※、世代等を問わず、様々な背景を持つ方々が文化生涯学習活動に参加し、体験できる機会を提供します。

また、施設における合理的配慮※の実現に向け、障がいの特性に配慮した情報保障(日本語字幕、手話通訳、音声ガイド等)の充実や物理的なバリアへの対応など、施設のバリアフリー化を進めます。

令和6年度の主な実績

生涯学習では、対面では足を運べない方も受講できる、対面及びオンラインを組み合わせたハイブリッド型の講座を開催しました。また、障がい者支援者、子どもから大人まで幅広い年代を対象とした生涯学習講座注)を開催しました。

注) 障がい支援者向けペアレントトレーニング、エッセイワークショップ、シニア向け体操教室等

令和6年度実績の施策評価

【成果】

- ◆音楽や演劇、美術の鑑賞の機会、茶道や舞踊などのワークショップや多様な公演を開催し、様々な分野の文化芸術に触れる機会を提供しました。
- ◆生涯学習については、多様な主体による講座を様々な手法により実施できました。引き続き、生涯学習ポータルサイトを運営し、情報発信に努めるとともに、ポータルサイト内に新たに「まなびスタートアップ！市の講座ナビ」を立ち上げ、市及び教育委員会を含めた多くの事業の情報発信を行うことができました。

【課題】

◇より多様な人が文化生涯学習活動に参加できるよう、ハイブリッド型の講座に加えて、様々な手法を用いて多様な機会を提供することが必要です。

※ポータルサイト:インターネットにアクセスするときの入口となるウェブサイトのことをいいます。ここでは文化生涯学習活動を探すためのウェブサイトを指しています。

※インクルーシブ(inclusive):包摂(ほうせつ)的な、全てを包み込むという意味です。エクスクルーシブ(exclusive:「排除的な、排他的な」)の反対の概念であり、様々な背景を持つあらゆる人が排除されない状態を指しています。

※アウトリーチ:本来の意味は「手を伸ばすこと」です。本プランでは、日頃、文化芸術や生涯学習に触れる機会が少ない市民に対して、主に施設外での事業の実施や出前講座等の働きかけを行う活動を意味しています。

※ジェンダー:生物学的な性別ではなく、社会的・文化的に作られた性別のことです

※合理的配慮:障がいのある方々の人権が、障がいのない方々と同じように保障されるとともに、教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、それぞれの障がい特性や困りごとに合わせて行われる配慮のことです。令和3(2021)年6月、行政・学校・企業などの事業者に対して提供を義務付けられました。

施策2

未来を創る市民の育成と活動支援

■施策の方向

- 市民の文化生涯学習活動を支援する人(支援者)の育成を図り、誰もが活動の担い手となり次世代へ伝えていく環境をつくれます。
- 市民の文化生涯学習活動や発表の場づくりを行うとともに、イベントの開催や広報等の支援を行います。
- 文化芸術を通じた教育の充実を図るとともに、教育現場が子どもの成長に合った事業を展開できるよう支援します。

■主な取り組み

①支援者の開拓と育成

・支援者の開拓

様々な学習分野に対応できる人材バンク「まなびの市民講師制度※」について積極的に周知を図り、学びの受け手だけでなく担い手として活躍したい市民のニーズを引き出し、支援者の新規登録を促します。

令和6年度の主な実績

まなびの市民講師制度について、生涯学習ポータルサイト、生涯学習ガイドブック、講座等にて多角的に周知を図り、随時登録申し込みを受け付けました。

(新規登録者23人(全体:9分野・登録者138人))

・支援者の育成

まなびの市民講師をはじめとする支援者の講座スキルを向上させるため、多様なセミナーを実施します。さらに、数多くの講座ブースを設ける「学びフェスタ」を開催するなど、講師経験の場を提供し育成を図ります。

令和6年度の主な実績



生涯学習支援者養成講座

まなびの市民講師をはじめ、生涯学習支援者のスキル向上を図るため、①生涯学習(人生100年時代に学び続けることの大切さ)及び②キャッチコピーの作り方に関する「生涯学習支援者講座」を2講座実施しました。

11月にハマミナまなびプラザ各貸室を活用して講座開催場所を設ける「学びフェスタ」を開催し、まなびの市民講師の講師経験の場を提供しました。(講師18人)

②市民活動の支援

・活動や発表の場づくり

市民が自発的に行う文化生涯学習活動(創作、練習、稽古、発表、講座の開催等)を支援するため、各施設の役割(第4章 1 (1)③市の役割参照)のもと、特性を生かした施設運営を行います。

令和6年度の主な実績



ハマミーナまなびプラザ音楽室

ハマミーナまなびプラザは、学校教育以外の学びの場、市民の交流の場として、音楽室・体育室等の貸し出しを行い、市民の文化生涯学習活動における練習、稽古、講座の開催等を支援しました。(貸室利用者 29,393人)

利用者数	4年度	5年度	6年度
	21,640人	26,189人	29,393人

・文化芸術に関するイベント

市民の文化芸術活動の発表と交流の場を提供することを目的としたイベントを開催することで、子どもを含む幅広い世代が日頃の活動を発表し、交流できる環境をつくれます。

また、イベントの開催に当たっては、文化芸術活動を行う様々な団体と連携します。

令和6年度の主な実績



高校生バンド応援企画

10月～11月に開催する茅ヶ崎みんなのアートフェスは、文化芸術フェスティバルとして令和5(2024)年から市民文化会館で実施しています。高校生バンド応援企画「でっかいホールで演奏するぜ!」は、高校生でバンドを組んでいれば原則誰でも参加でき、令和6年度は6グループの参加がありました。

市内商業施設の協力のもと、多くの人が行き交う商業スペースで市民団体と連携した文化芸術活動の発表及び交流の場となる市民展示会を2回開催し、約90人の参加がありました。

・まなびの窓口の運用

ハマミナーまなびプラザ等に「まなびの窓口」を設置し、学習相談を受け付けている教育委員会の各公民館とも連携しながら、市で実施されている多様な文化芸術・生涯学習事業等に関する情報提供や、市民活動団体※・サークルの紹介等、市民それぞれが求める学びにつながるサポートをします。

令和6年度の主な実績

ハマミナーまなびプラザ等にまなびの窓口を設置し、サークルに関する相談等、市民からの学習相談を受け、案内をしました。（相談件数：21件）

・広報等の支援

市内で開催される文化芸術・生涯学習に関する催しや市民活動団体等の活動情報など、市民が文化生涯学習活動を行う際に必要とする情報を広報紙やホームページ、SNS など様々な媒体を使って提供します。

令和6年度の主な実績

生涯学習では、市民のサークル情報を含む生涯学習情報を網羅した冊子「生涯学習ガイドブック」の発行、市が実施する学びの情報等を集約した生涯学習ポータルサイトを運営、生涯学習に関する催し・生涯学習支援者向けの講座についてSNSを活用し情報提供しました。

市内で開催される文化芸術・生涯学習に関する催し等について市の名義後援を行い、当該事業の広報紙への掲載やチラシの公共施設への配架など、広報支援を行いました。

③教育の支援

・学校等における文化芸術鑑賞・体験機会の提供

文化芸術を通して子どもたちの豊かな創造性や感受性が育まれるよう、音楽や演劇、ダンス、伝統芸能、美術等、様々な分野の鑑賞・体験機会を提供します。

また、教員等を対象とする事業を実施することで、授業等における鑑賞・体験機会の効果的な活用方法等を共有し、文化芸術による教育のさらなる充実を図ります。

令和6年度の主な実績



アーティスト出張ワークショップ

文化芸術教育プログラム事業を実施し、児童・生徒及び学校の教職員等を中心にアートに触れる機会を提供しました。文化会館では4事業、美術館では5事業、松籟庵では1事業を実施し、子どもから大人まで約5,200人が参加しました。

学校へアーティストが訪問するアウトリーチ事業では子どもたちの鑑賞体験とともに、担当教諭も体験機会があるなど、子どもたちと一緒に経験できる機会となっています。

・教育現場で活用できる学びの機会の提供

子どもたちに多様な学びの機会を提供するため、市職員が講師となり、市の取り組み等について学ぶことができる「市民まなび講座」等について、小中学校など教育現場での活用の検討を進めます。

令和6年度の主な実績

現在登録のある「市民まなび講座」において、小中学校など教育現場での活用の可能性がある項目について検討を行いました。

・子どもたちが継続的に文化芸術活動に親しむことができる環境の整備

文化庁が策定した「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえ、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、子どもたちが参加することができる地域の芸術文化活動の場を創出するために必要な対応について、教育委員会と連携を図りながら検討を進めます。

令和6年度の主な実績

学校の部活動やクラブ活動の地域展開に関し、教育委員会と情報共有するなかで、課題を双方再認識しました。引続き、教育委員会と一緒に実施可能な形を研究することとしています。

【成果】

- ◆生涯学習においては、活動の担い手となりえるようまなびの市民講師制度を運営するとともに、その支援者へのフォローとして、スキルアップを目的とした講座の開催、学びフェスタを開催し、講師経験の場を設けました。また、まなびの市民講師制度では、各講師が実施する講座について広報紙及びメール配信サービスを活用し、支援を行いました。
- ◆文化芸術プログラム事業において、児童・生徒の体験機会の活用は学校側の意欲も高く広まってきています。

【課題】

- ◇文化芸術教育プログラム事業において、教職員等向けのプログラムの参加が低い状況です。教職員がより参加しやすく参加したいと思える工夫が必要です。

※まなびの市民講師制度：市では、様々な分野において豊富な経験や資格をお持ちの方や専門的な知識や技術をお持ちの方に生涯学習における身近な支援者「まなびの市民講師」として登録しています。登録分野は「家庭生活・趣味」、「教育・育児」、「自然・環境」、「文化・芸術」「健康・スポーツ」など多岐にわたっています。

※市民活動団体：市民活動を行うものを示し、市民や事業者を含みます。また、団体として組織的に市民活動を行うものを「市民活動団体」としています。

施策3

文化資源の継承

■施策の方向

- 茅ヶ崎の文化的特性について、学際的※な視点で市民とともに調査・研究を行い、その価値を未来へ継承します。
- 茅ヶ崎にゆかりのある人物たちの業績や気質を調査・研究し、その人物の素顔や茅ヶ崎との関わりなどを広く市民と共有します。
- 誰もが文化資源を活用できる機会を提供し、学習や研究の活動を支援するとともに、その成果を発表する場を提供します。

■主な取り組み

①文化資源の調査・研究、保存、維持・継承

・歴史資料の収集、整理、保存

市民共有の知的資源である特定歴史公文書等※、その他歴史的な資料を収集し、茅ヶ崎の歴史を次の世代へ継承していきます。また、市史編さん事業で蓄積した研究成果を分かりやすく、より多くの方々へ還元するため、編集・刊行している「ヒストリアちがさき」や全国的にも歴史的価値が高い日記等を翻刻※し、発行している「茅ヶ崎市史史料集」をはじめとした市史刊行物を作成するなど、専門家とも連携しながら茅ヶ崎の貴重な歴史的資料の収集、整理、保存を行います。

令和6年度の主な実績



ヒストリアちがさき 第16号

市史編さん事業で蓄積した研究成果として、ヒストリアちがさき第16号を作成しました。(400部) 本号は、南湖院を特集し、過去のヒストリアちがさきに掲載した論文を再編集しました。

その他、資料紹介として棋士木村義雄名人の講演録なども収録しました。

【主な内容】

「南湖院と『青鞥』周辺の人たち」

特集:「南湖院」ー過去に掲載したものより、南湖院コラム

コラム:昭和25年の茅ヶ崎市政 ほか

・美術品の収集、調査研究

茅ヶ崎の歴史・風土等を反映した特色ある郷土美術の発展に資するため、茅ヶ崎にゆかりの深

い美術家の作品や茅ヶ崎を題材とした作品等を中心として体系的な収集活動や調査研究を行い、後世に継承します。

令和6年度の主な実績

令和6年度第1回茅ヶ崎市美術品審査委員会を開催し、寄附申出のあった茅ヶ崎ゆかりの作家の絵画について美術館への受入れ適否を審査しました。

・茅ヶ崎ゆかりの人物の調査研究

茅ヶ崎の貴重な文化資源である「人」に焦点を当てた調査、研究、収集、整理、保存を市民とともに進めます。茅ヶ崎ゆかりの人物館では、ゆかりの人物たちがどのように茅ヶ崎を愛し、文化を創造してきたか、市民とともに調査研究を行う「ゆかりラボ」事業を実施し、そこから未来を創るヒントを学んでいきます。

また、開高健記念館では、芥川賞受賞作家である開高健が愛用した品々や執筆した作品、行動する作家と呼ばれた開高のルポルタージュ※や取材の跡から、世界観、功績などを紹介し、後世に継承していくとともに、市民が文学に触れる機会を創出します。

令和6年度の主な実績



企画展の様子

茅ヶ崎ゆかりの人物館では、令和6年度前期企画展として「茅ヶ崎純水館物語 糸もつくるが人もつくる」の展示を、後期企画展として「茅ヶ崎と大岡越前守 400年のえにし—縁—」の展示を行いました。

開高健記念館では、令和6年度前期企画展として「広告人・開高健の三つの顔」の展示を、後期企画展として「開高健 手書き原稿の宇宙」の展示を行いました。

施設	展示	会期	来場者
ゆかり	茅ヶ崎純水館物語 ～糸もつくるが、人もつくる～	4月27日～9月29日(74日間)	1,420人
	茅ヶ崎と大岡越前守 400年のえにし—縁—	10月26日～5月6日(89日間)	1,181人
開高健	広告人・開高健の三つの顔	4月27日～9月29日(74日間)	1,510人
	開高健 手書き原稿の宇宙	10月26日～5月6日(89日間)	1,522人

②文化資源の活用・公開

・歴史資料に関する研究成果の公開

収集した特定歴史公文書等は整理するとともに、現在所蔵している資料を含め適切に保管し、市民がこれらの資料を利用できるよう目録の公表を進め、専門家による研究成果を広く市民に公開、共有します。

令和6年度の主な実績



特定歴史公文書等

令和5年度末で現用文書の保存期間が満了し、令和6年度に特定歴史公文書等として選別が完了した目録（平成5年度、平成25年度、平成30年度、令和2年度、令和4年度分）を公表しました。

特定歴史公文書等の利用請求がありました（請求数45件、文書件数146件）。

専門家によるヒストリアちがさき第16号のコラム執筆に当たり、特定歴史公文書等が利用されました。

・資料を活用した普及啓発

市史編さん事業の成果を知っていただくため、「ヒストリアちがさき」や、一つのテーマを採り上げて読みやすい文章でまとめた「茅ヶ崎市史ブックレット」を活用した講座等を開催するなど、多くの人々に茅ヶ崎の歴史を知っていただく機会を創出します。また、歴史資料の利用促進のため、展示等の周知活動を行います。

令和6年度の主な実績



写真展の様子

市史講座として、茅ヶ崎 太陽の郷 博修館を会場に「南湖院第一病舎の設計者 岡本鶴蔵」（56人）を開催し、同施設への理解を深めました。

「太平洋戦争開戦の日」（21人）を開催し、コロネット作戦と茅ヶ崎をテーマに、戦争の悲劇を風化させない取り組みを行いました。

昔の写真・特定歴史公文書等に関する展示として、「茅ヶ崎市内3駅（茅ヶ崎駅・北茅ヶ崎駅・香川駅）とその周辺いまむかし」をテーマに、2月25日から2月28

日まで市役所本庁舎1階市民ふれあいプラザにて及び3月15日から3月23日まで茅ヶ崎市博物館にて巡回展を実施し、市民等へ周知啓発を行いました。

・茅ヶ崎ゆかりの人物に関わる研究結果の公開

市民の地域アイデンティティ※を高めることを目的として、茅ヶ崎にゆかりのある人物を通じた茅ヶ崎という地域の調査研究を行い、その成果を市民に還元します。

「ゆかりラボ」事業で身につけた専門的な知識やスキルなどの成果を茅ヶ崎ゆかりの人物館における展示等で発表します。

令和6年度の主な実績



展示関連イベントの様子

純水館茅ヶ崎製糸所館長であった小山房全を中心に、関連する人々について調査研究を行い、前期企画展会期中に調査結果を発表しました。また、ゆかりラボ生主催の展示関連イベントを行いました。

また、令和7年に「大岡越前祭」が第70回という節目を迎えるにあたり、大岡越前守忠相と茅ヶ崎とのつながりについて調査研究を行い、後期企画展会期中に調査結果を発表しました。

・現存する文化資源の利活用

茅ヶ崎の文化的発展の足跡を示す現存する資源等の利活用に努めます。旧南湖院第一病舎は、明治期から昭和20(1945)年頃まで結核療養所として使用されました。同施設を保存・継承するため、「旧南湖院第一病舎等利活用基本方針」に基づき、維持・管理に向けた事業を進めます。

また、当時の資料も多く残されているため、これらの資料を保存、公開、展示できるよう整備します。

令和6年度の主な実績



旧南湖院第一病舎

旧南湖院第一病舎の維持管理を行いました。
また、利活用に向けた手法検討を行いました。

・デジタルアーカイブ※の公開

市史に関する資料や美術館における収集活動及びそれらの調査研究の成果を後世に継承するため、資料や記録等のデジタルアーカイブ化を行います。

また、市民がデジタルアーカイブを閲覧できるようインターネット上で公開するとともに、内容の充実を図ります。

令和6年度の主な実績



ちがだべ（デジタルアーカイブ）

ちがだべ（デジタルアーカイブ）

市史編さんに係る写真資料507点を順次公開しました。

令和6年度実績の施策評価

【成果】

- ◆市史編さん事業で蓄積した研究成果を分かりやすく、より多くの皆様へ還元するため、「ヒストリアちがさき第16号」を刊行しました。
- ◆これまで市史編さん担当が作成した刊行物を通じて、茅ヶ崎の歴史について広く周知するため、刊行物における割引販売を新たに導入しました。
- ◆令和6年度に特定歴史公文書等として選別が完了した目録を公表しました。
- ◆市史編さん事業の成果を知っていただくため、ひとつのテーマを取り上げて読みやすい文章でまとめた「茅ヶ崎市史ブックレット」を活用した市史講座を実施しました。
- ◆昔の写真と特定歴史公文書等に関する展示を行い、市民等へ広く周知啓発を行いました。
- ◆ゆかりの人物に関する調査研究や展示を行いました。

【課題】

- ◇調査研究により蓄積した成果は、あらゆる世代が市史をわかりやすく楽しく学ぶことができるよう工夫を凝らしながら多様な手法を用いて事業を展開していく必要があります。
- ◇調査・収集した資料を有効に利活用するため、庁内における更なる連携を進めながら市民等へ情報提供していく必要があります。
- ◇市史編さんに係る刊行物の販売促進に向けて、販売場所等を検討する必要があります。

※学際的：学問や研究が複数の異なる範囲や領域にまたがっていることを指します。

※特定歴史公文書等：歴史資料として重要な文書であって市民共有の知的資源として永久保存する文書のことで、寄贈、寄託

文書を含みます。

※翻刻(ほんこく):すでにある本や原稿を木版や活版で新たに起こし刊行することです。

※ルポルタージュ:事件や社会問題などを綿密に取材して事実を客観的に叙述する文学のジャンルの一つです。報告文学や記録文学とも呼ばれます。

※地域アイデンティティ:地域の独自性を高め、表現することにより、その地域の活性化を図ることを指します。

※デジタルアーカイブ:文書や文化資源などを電子データの形で長期的に保管する記録方式のことです。

施策4

個性豊かで愛着あるまちづくり

■施策の方向

- 茅ヶ崎の文化をさらに発展させていくため、創造力にあふれた人材が集まり、育つ環境づくりを進めます。
- 市内に点在する文化資源を生かし、市民それぞれに茅ヶ崎が愛着と誇りあるまちとなるよう地域の価値を高める取り組みを進めます。
- 教育、福祉、経済、まちづくりなどの他分野や市民活動団体や企業、学校等、様々な主体と連携・協働[※]し、総合的な事業展開を図ります。

■主な取り組み

①クリエイター[※]が集まり、育つまち「クリエイターシティ・チガサキ」の形成

・クリエイターが集まる場の創出

明治から大正期の旧南湖院第一病舎には多彩な表現者が訪れました。その歴史の上に立ち、次世代のまちの原動力となる「ひと」が集い、未来を志向し、新しい価値を生み出す場として、登録有形文化財である旧南湖院第一病舎や文化生涯学習活動の拠点となる施設をクリエイターが集まり、創作活動や展示発表、ワークショップなどの拠点として使用できる場として活用します。

令和6年度の主な実績



ハマミーナ外観

旧南湖院第一病舎の利活用に係る手法検討を行いました。

また、生涯学習活動の拠点として、子どもから大人、高齢者まで様々な世代が集いながら学び、交流できるハマミーナまなびプラザを運営しました。

・次世代のクリエイターが育つ環境づくり

文化芸術に関するイベントやワークショップ、講座等を開催することで、子どもたちを中心に幅広い世代にクリエイティブな職業や活動に興味を持っていただくとともに、次世代のクリエイターの育成や発掘につなげます。また、各施設や文化資源と連携し、クリエイターの活動を支援するとともに、市民が文化芸術に関わる機会を創り出すことで、市内各所に新たなアイデアが生まれる創造的な環境をつくれます。

令和6年度の主な実績



作家養成講座の様子

クリエイターシティチガサキ・キックオフシンポジウム「文化×創造力で未来をつくる」を開催しました。(71人)

講師に茅ヶ崎市出身の絵本作家・あずみ虫さんを招き、作家養成講座を開催しました。(115人)

クリエイターが展示や物販、ライブペインティングを行うイベントとして、市役所前広場にて「クリエイターズ・ガーデン」を開催しました。

国際交流フェスティバルにおいて、外国語による読み聞かせや海外音楽の演奏等の機会を提供しました。

・ユネスコ創造都市ネットワーク※への加盟

クリエイターにより生み出された新たな価値を、日本国内、さらには世界に向けて発信するため、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を目指します。加盟することで、文化芸術分野における市民意識の高まりが図られるとともに、他の地域との文化的な連携が進み、市民レベルでの国際的な文化交流が期待でき、茅ヶ崎のさらなる文化の振興と経済発展などが期待できます。

令和6年度の主な実績



クリエイターシティ・チガサキホームページ

市長による創造都市宣言を行いました。

また、創造都市茅ヶ崎の歴史や取り組み、ゆかりの著名人等を紹介する、クリエイターシティ・チガサキのホームページを開設し、事業の周知を図りました。(アクセス数 2,670)

ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を目指し、加盟都市の視察や調査研究を行いました。

さらに、市民向けワークショップを開催し、クリエイターシティ・チガサキ形成戦略事業やユネスコ創造都市ネットワーク加盟について意見交換を行いました。(33人)

②文化資源を生かしたまちの価値の向上

・新たな価値を生み出す文化資源の活用

茅ヶ崎の文化的な特性を示す文化資源を活用することで、市民の文化資源に対する知識や理解が深まり市民の茅ヶ崎への愛着の醸成につなげるため、国登録有形文化財である「旧南湖院第一病舎」や「旧藤間家住宅主屋」、「旧氷室家住宅主屋」をはじめとする文化資源を調査し、保存

や公開、新たな利活用に向けた取り組みを進めます。

令和6年度の主な実績



旧藤間家住宅

旧藤間家住宅の利活用に向けて、耐震診断及び耐震補強基本設計の検討を行いました。

市史講座として、「南湖院・第一病舎の設計者 岡本鶴蔵」(56人)を開催し、同施設への理解を深める取り組みを行いました。

・様々な資源とつながる取り組みの展開

文化資源だけでなく、市内に存在する様々な資源とつながる取り組みを進め、その魅力を発信することで地域の価値を高め、観光の促進など、まちの活性化に寄与します。

令和6年度の主な実績



市史・特定歴史公文書等写真展

市史講座として、「太平洋戦争開戦の日」(21人)を開催し、コロネット作戦と茅ヶ崎をテーマに、戦争の悲劇を風化させない取り組みを行いました。

昔の写真・特定歴史公文書等に関する展示として、「茅ヶ崎市内3駅(茅ヶ崎駅・北茅ヶ崎駅・香川駅)とその周辺いまむかし」をテーマに、2月25日～2月28日に市役所本庁舎1階市民ふれあいプラザにて及び3月15日～3月23日に茅ヶ崎市博物館にて巡回展を実施しました。

クリエイターが展示や物販、ライブペインティングを行うイベントとして、市役所前広場にて「クリエイターズ・ガーデン」を開催しました。

③様々な分野・実施主体との連携による総合的な事業展開

・生涯学習事業のコーディネート

多様な主体が行う生涯学習に関する事業の情報を収集・管理し、各事業のコラボレーションを促したり、事業内容を調整したりすることで、効率的かつ体系的な事業展開ができるよう生涯学習事業のコーディネートを行います。また、生涯学習ポータルサイトに事業の情報を集約すると

もに、一体的に情報を発信することで、市民が、求める学びにつながりやすい環境をつくり、市民の学びの機会の充実を図ります。

令和6年度の主な実績



市が実施する学びの情報等を集約した生涯学習ポータルサイトを運営しました。

また、同ポータルサイト内にて「まなびスタートアップ! 市の講座ナビ」の運営を開始しました。

本サイトは、これまで市及び教育委員会の各部署にて発信していた講座・講演会情報を集約するとともに、文化・生涯学習、歴史・文学、こども・子育て・教育など、種類別に情報を発信しました。(アクセス数5,538)

・地域の賑わいの創出

ハマミーナまなびプラザを会場に、まなびの市民講師の多様な講座を提供する「学びフェスタ」、NPO法人が様々なあそび体験を提供する「あそびフェスタ」、商業施設事業者がステージ発表の場を提供する「BRANCHフェスタ」を合同で「しろやまフェスタ」として開催し、地域の賑わいを創出するとともに様々な学び・体験の機会を提供します。

令和6年度の主な実績



学びフェスタ

商業施設事業者及び NPO 法人と共催にて、しろやまフェスタを開催し、市南西部地区の賑わいを創出しました。

学びフェスタは、ハマミーナまなびプラザ各貸室を使用し、まなびの市民講師がアート、料理、工作、手芸、語学等、多様なワークショップ(21回)を開催しました。(123人)

あそびフェスタは、キッズダンスの発表やラグビーの体験会を、BRANCHフェスタは、チアダンスの発表の場や、サッカースクールを開催しました。

・国内外の都市との交流

姉妹都市のホノルル市・郡との国際親善を図ることを目的とした青少年交流やイベントを通じた民間ベースでの交流、美術館同士の交流による異なる文化や歴史の調査研究、ゆかりのまち岡崎市との青少年による交流など、国内外の都市との様々な交流を通して、双方の歴史、文化等を享受し学び合うことで、地域文化の発展に寄与します。

令和6年度の主な実績



ホノルル市・郡の子どもたちとの交流

青少年国際交流事業として、ホノルル市・郡の小学生4人、教員2人を茅ヶ崎市へ受け入れ、小学校訪問や企業見学のほか、文化・農業体験、ビーチクリーン等を行いました。

民間主体のイベント「茅ヶ崎アロハマーケット」を開催し、約4万3,000人が来場しました。また、イベント終了後にはハワイゲストと小学生との教育プログラムを行いました。

美術館による姉妹都市交流事業については、秋季企画展にて友好協定締結10周年と海外渡航自由化100年を記念し「柳原良平ごきげんな船旅」を開催しました。

「ゆかりのまち青少年交流事業」として、愛知県岡崎市と長野県佐久市の子どもたちを茅ヶ崎市に招き、バレーボール交流を実施しました。試合後には、茅ヶ崎市博物館と浄見寺を見学し、茅ヶ崎市の文化や歴史を学びました。

ゆかりのまち提携40周年を記念し、岡崎市から名産の御影石を使用した歌碑が寄贈され、茅ヶ崎市からは返礼品として、ビッグアロハシャツとサーフボードを寄贈しました。



ゆかりのまち青少年交流事業

令和6年度実績の施策評価

【成果】

- ◆生涯学習分野においては、企業及びNPO法人と連携・協働し、地域のイベントを創出するイベントを開催した。また、市及び教育委員会が開催する事業について、一体的に情報を発信するサイトを立ち上げました。
- ◆「クリエイターシティ・チガサキ」の形成に向けて、イベント等の開催やホームページをはじめとする様々な媒体を活用した周知を行うことができました。

【課題】

◇生涯学習分野においては、一体的に情報を発信するサイト立ち上げにより、各主体の事業の情報を収集及び発信をすることはできましたが、収集した情報を基にした類似事業の連携や各事業のコラボレーションを促すなどのコーディネートを行うまでは至っていません。

※協働：茅ヶ崎市市民活動推進条例第2条で「協働とは、市、市民活動を行うもの、市民及び事業者が共通する目的の実現に向けて、それぞれの果たすべき役割と責任を理解し、互いの特性を生かして協力し行動することをいう。」と規定されており、協働の実施形態には、「委託」、「指定管理者」、「事業協力」、「実行委員会」、「共催」、「補助」、「後援」などが挙げられています。

※クリエイター：造物主、創造的な仕事をしている人、創造者、創作家のことで、小説家、詩人、映画監督、作詞家・作曲家、美術家、建築家、デザイナー、アニメ作家などを指します。

※ユネスコ創造都市ネットワーク：ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN: the UNESCO Creative Cities Network)は、世界遺産等とは異なり、条約に基づくものではなく、ユネスコが主体として実施する事業です。世界の加盟都市は295都市で、7分野(文学、映画、音楽、クラフト&フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化)のいずれかに分類されています。日本では10都市が加盟認定されています(令和3(2023)年9月15日現在)。

